



第3章

経営指標の状況

1. 収益性(収支の状況)に関する項目

2. 財務比率に関する項目

3. 施設の効率性(稼働状況)に関する項目

4. 生産性(職員数と事業の状況との関係)に関する項目

5. 料金に関する項目

6. 費用に関する項目

グラフの凡例

数値 … 吹田市数値

数値 … 全国平均値
(令和4年度(2022年度)数値まで)

数値 … 類似都市平均値
(令和4年度(2022年度)数値まで)
類似都市は、給水人口30万人以上の市

優位性 ・ 単位



優位性について

数値が高い方が望ましい場合「↑」

数値が低い方が望ましい場合「↓」

いずれとも示せない場合「—」

1. 収益性(収支の状況)に関する項目

経常収益 対 経常費用比率

優位性 ・ 単位

↑ %

計算式

$$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$$

- ✓ 水道事業収益・費用から特別利益、特別損失を除いた経常的な収支の比率
- ✓ 100%を下回る場合は経常損失(赤字)が生じている状況

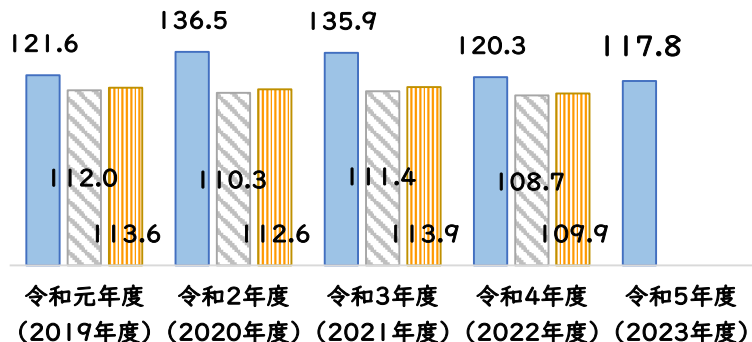
令和5年度 前年度比較

✓ 経常収益(分子): 0.8% **減**

✓ 経常費用(分母): 1.8% **増**

2.5ポイント **減**

物価高騰のほか、鉛製給水管の解消などによる **費用増**



営業収益 対 営業費用比率

優位性 ・ 単位

↑ %

計算式

$$\frac{\text{営業収益 - 受託工事収益等}}{\text{営業費用 - 受託工事費等}} \times 100$$

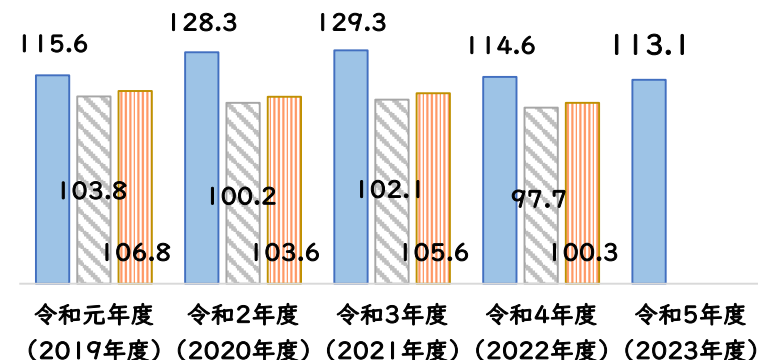
- ✓ 通常の営業活動における収益と費用の比率
- ✓ 100%を下回る場合は通常の営業活動で損失(赤字)が生じている状況

令和5年度 前年度比較

✓ 営業収益(分子): 0.4% **増**

✓ 営業費用(分母): 1.7% **増**

1.5ポイント **減**



2. 財務比率に関する項目

自己資本構成比率

優位性 ・ 単位

↑ %

計算式

$$\frac{\text{資本金+剰余金+繰延収益}}{\text{負債資本合計}} \times 100$$

- ✓ 総資本に占める、返済負担のない自己資本の比率
- ✓ 高いほど経営が安定
- ✓ 低い場合は企業債の返済負担が高く、財政状況は不安定

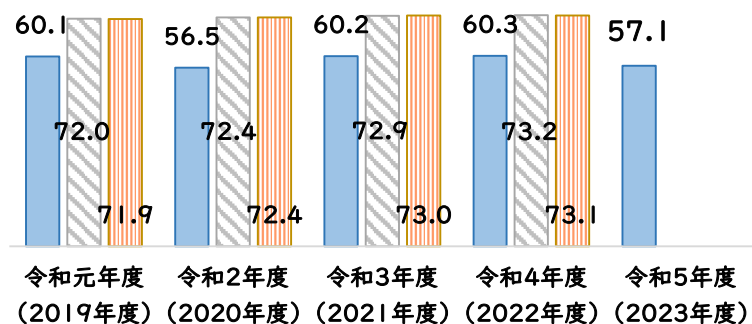
令和5年度 前年度比較

✓ 資本金など (分子): 3.4% **増**

✓ 負債資本合計(分母): 12.8% **増**

3.2ポイント **減**

施設整備の財源に充てるための **企業債(負債) 増**



固定資産構成比率

優位性 ・ 単位

— %

計算式

$$\frac{\text{固定資産}}{\text{資産合計}} \times 100$$

- ✓ 総資産に対する固定資産の割合
- ✓ 水道事業は装置産業であることから全国的に高い値
- ✓ 本市は施設の延命化を図ってきたことなどから平均より低い

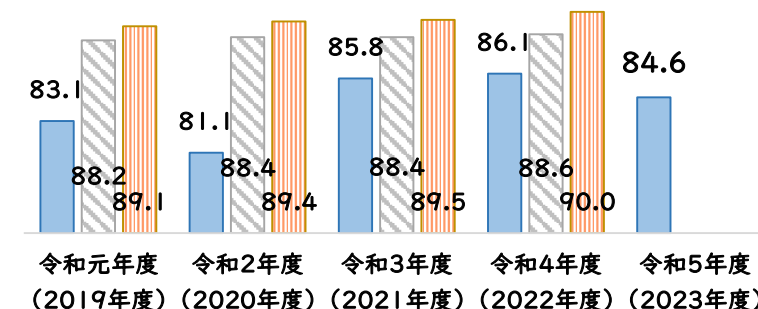
令和5年度 前年度比較

✓ 固定資産(分子): 7.2% **増**

✓ 資産合計(分母): 9.1% **増**

1.5ポイント **減**

現金・預金(流動資産)の増



3. 施設の効率性(稼働状況)に関する項目

施設利用率

優位性・単位

↑ %

計算式

$$\frac{\text{1日平均配水量}}{\text{配水能力}} \times 100$$

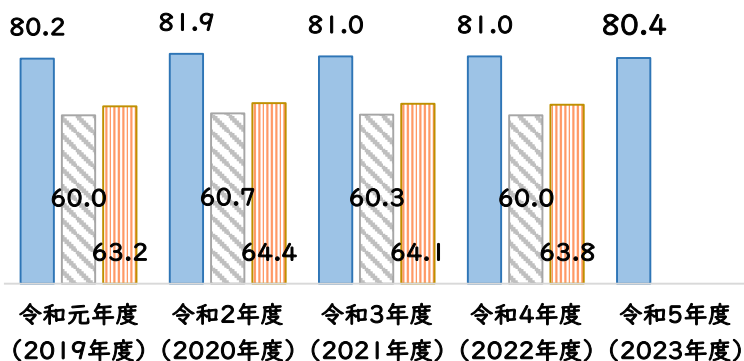
- ✓施設能力に対する1日平均配水量の比率
- ✓施設の利用状況を見る指標
- ✓高いほど施設が有効利用されている
- ✓本市の配水能力は141,000m³/日(平成28年度(2016年度)変更認可)

令和5年度 前年度比較

✓1日平均配水量(分子):0.8%減

0.6ポイント減

節水機器普及や生活様式の変化などに伴う小口径の給水量減



最大稼働率

優位性・単位

↑ %

計算式

$$\frac{\text{1日最大配水量}}{\text{配水能力}} \times 100$$

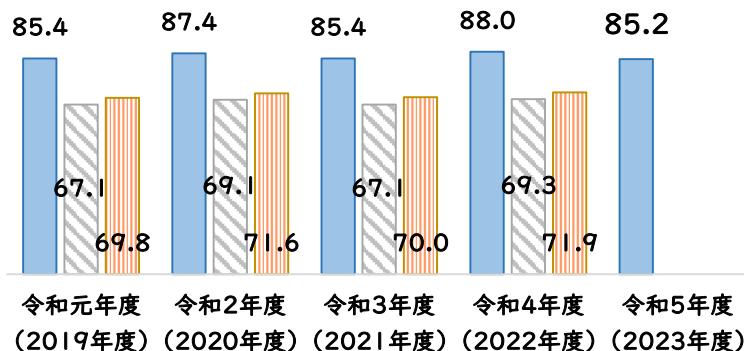
- ✓施設の配水能力に対する1日最大配水量の比率
- ✓施設能力の適否を見る指標
- ✓100%超は、配水能力が不足
- ✓100%を大きく下回る場合は、設備投資が過大

令和5年度 前年度比較

✓1日最大配水量(分子):3.2%減

2.8ポイント減

気象条件の違いや大口需要時期の重なりなどに伴う配水量減



4. 生産性(職員数と事業の状況との関係)に関する項目

職員1人当たり給水量

優位性・単位

↑ m³

計算式

$$\frac{\text{年間給有収水量}}{\text{損益勘定所属職員数}}$$

- ✓業務効率等の労働生産性を示す指標
- ✓有収水量は、水所及び配水場から送り出された水のうち、メーターで計量されて、料金収入に結びついた水量

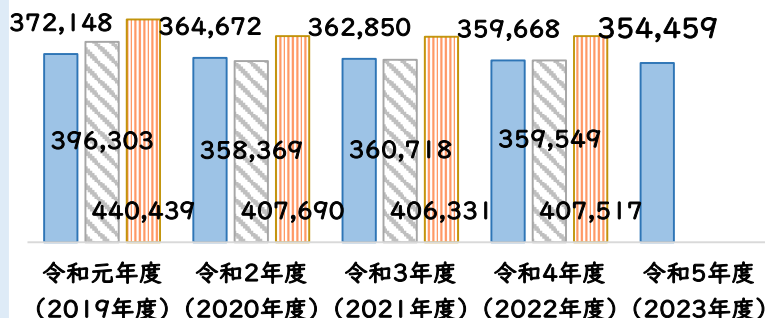
令和5年度 前年度比較

✓有収水量(分子):0.6%減

✓職員数(分母):0.9%増

1.4%減

拠点施設の段階的な整備など事業量に見合った職員数確保



職員1人当たり給水収益

優位性・単位

↑ 千円

計算式

$$\frac{\text{給水収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$$

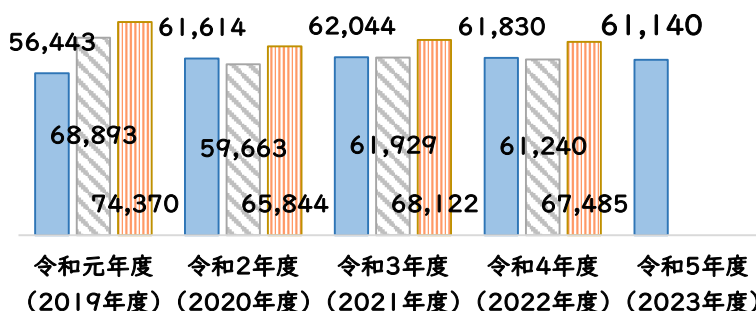
- ✓水道事業における生産性について、給水収益を基準として把握するための指標

令和5年度 前年度比較

✓給水収益(分子):0.2%減

✓職員数(分母):0.9%増

1.1%減



5. 料金に関する項目

供給単価

優位性・単位

— 円

計算式

給水収益
年間総有収水量

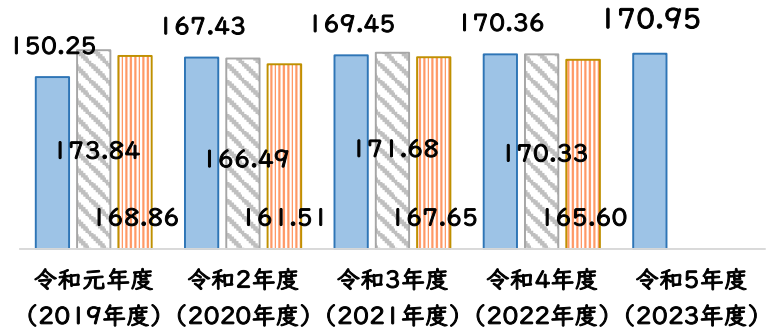
- ✓ 水道水1㎡当たりの平均販売単価
- ✓ 下欄の「給水原価」を下回る場合は「販売損失」が生じている状況

令和5年度 前年度比較

- ✓ 給水収益(分子): 0.2% **減**
- ✓ 有収水量(分母): 0.6% **減**

0.3% **増**

中大口径(特にφ40~150mm)の需要量**増**と逓増制水道料金



給水原価

優位性・単位

↓ 円

計算式

長期前受金戻入
経常費用 - 受託工事費等 - 見合いの減価償却費等
年間総有収水量

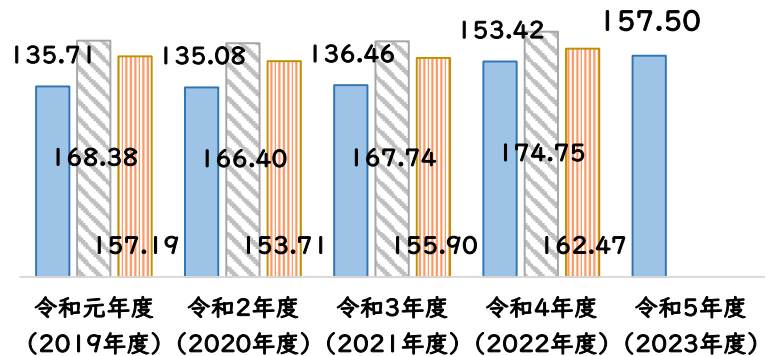
- ✓ 水道水1㎡当たりの平均製造費用

令和5年度 前年度比較

- ✓ 経常費用(分子): 1.8% **増**
- ✓ 有収水量(分母): 0.6% **減**

2.7% **増**

販売利益=供給単価-給水原価=13.45円/㎡



6. 費用に関する項目

企業債償還額 対 給水収益比率

優位性・単位

↓ %

計算式

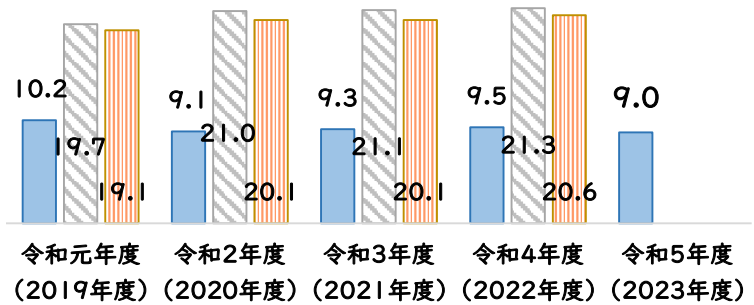
企業債償還元金
給水収益 × 100

- ✓ 企業債返済に係る相対的な負担の大きさを示す
- ✓ 事業規模に対する企業債発行額の適否をみる指標

令和5年度 前年度比較

- ✓ 企業債償還元金(分子): 4.7% **減**
- ✓ 給水収益(分母): 0.2% **減**

0.5ポイント **減**



職員給与費 対 給水収益比率

優位性・単位

↓ %

計算式

職員給与費-受託給与費等
給水収益 × 100

- ✓ 職員給与費の相対的な大きさを示す
- ✓ 高くなると、固定費の割合が増え、経営悪化につながるおそれ

令和5年度 前年度比較

- ✓ 職員給与費(分子): 2.9% **増**
- ✓ 給水収益(分母): 0.2% **減**

0.6ポイント **増**

